

宗像大社 中津宮

中津宮は、宗像大社の主要な 3 つの神社の 1 つで、九州の西海岸からフェリーですぐの大島にあり、御嶽山の麓にあります。中津宮からは漁港や主要な港を一望でき、島の生活の中心にあります。

御嶽山

中津宮は宗像三女神の一柱・湍津姫神を祀っています。御嶽山の山頂には、中津宮よりも古くからある古代の祭場があります。神社の裏手の道は山中を登って行き、祭場に建てられた御嶽神社に続いています。御嶽山の山頂までは徒歩約 20 分掛かります。

三女神の起源

中津宮の境内には、天真名井という天の川に注ぐ小さな泉があります。本殿の左側から下り道を行くと、泉にたどり着くことができます。日本最古の歴史書・古事記や日本書紀(8世紀初頭)には、太陽神・天照大神が、宗像三女神として祀られている三人の娘を生み出すために、弟の剣を噛み砕き吐き出す前に天井にある天真名井で清めたと記されています。飲むと長く幸せに生きられ、書道も上達すると言われていました。地元の子どもたちは、筆づかいを向上させるために、墨に泉の水を混ぜます。

聖なる水

沖ノ島にも天然の湧き水もあり、古代の船員にとって便利な立ち寄り先となりました。一般の人は沖ノ島の神社を参拝することが許可されていない代わりに、中津宮では、沖ノ島から持ち出せる唯一の物質である沖ノ島の水を入れたお守りや、中津宮の湧き水を入れたお守りや、沖津宮の御朱印を授けています。